

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

熊本県フォーラム 報告書

2019 年 12 月 15 日（日）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」熊本県フォーラムが開催されました。当日は、今年度の推進校の先生や生徒を中心に 206 名に参加いただき、下記の要領で行われました。

【開催概要】

日時：2019（令和元）年 12 月 15 日（日）13 時 00 分～15 時 55 分

会場：くまもと県民交流館パレア

主催：熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、NPO 法人ひとづくりくまもとネット

参加者：教員・生徒 206 名

プログラム：

13:00～13:10 開会挨拶

熊本県教育庁教育指導局体育保健課

課長 西村 浩二 氏

13:10～13:50 ラグビーW 杯 2019 日本大会の大成功した理由について

ラグビージャーナリスト／有限会社オフィス・フルバック

村上 晃一 氏

13:50～14:00 休憩

14:00～15:55 シンポジウム

「国際スポーツ大会を経て、迫る東京オリンピック・パラリンピックを考える」

シンポジスト

ラグビージャーナリスト／有限会社オフィス・フルバック

村上 晃一 氏

元ハンドボール日本代表／株式会社 MIMA

代表取締役 岩本 真典 氏

熊本県教育庁教育指導局体育保健課

主幹 鳴瀬 幸裕 氏

コーディネーター

特定非営利活動法人スポーツ・コミュニティ・

アンド・インテリジェンス機構

理事・代表代行 美齊津 二郎 氏

開会行事では、熊本県教育庁の西村氏より挨拶がありました。西村氏は、本フォーラムの目的に加えて、2019年は熊本県で高校総体（7 競技）、ラグビーW 杯、女子ハンドボール世界選手権と多くのスポーツの大会が開催されたことから、これらの大会を通して肌で感じたスポーツの素晴らしさを東京大会につなげてほしい、とメッセージを送られました。

続いて、ラグビーのジャーナリストである村上氏による講演が行われました。「ラグビーW 杯 2019 日本大会の大成功した理由について」というテーマで行われた講演では、ラグビーW 杯日本大会がチケット販売率や観客動員数等でこれまでの記録を更新した理由に関して、ラグビーW 杯日本大会の写真を見せながらお話がありました。村上氏は、ラグビーW 杯の成功の理由として主に、ラグビーとの様々な関わり方で多くの人々がラグビーを楽しむことができた点、日本代表が「ONE TEAM」となって躍進した点、参加した多くのチームがフェアプレイ等のスポーツの良さを体現した点、そして海外のチームを迎える日本のおもてなしが充実していた点を挙げられました。さらに、村上氏はラグビー憲章で示された「品位、情熱、結束、規律、尊重」というラグビーの精神を、選手だけでなく運営に携わった人や観る人等が体現できたことがよい結果を生んだのではないかと説明されました。最後に、ラグビーW 杯日本代表で熊本県内の高校出身の流大氏の「小さなことでも正しいことをやり続けることが大事」という言葉を紹介し、この精神はスポーツの場面だけでなく日常生活の場面でも重要であると聴講している高校生にメッセージを送られました。



西村氏の挨拶



村上氏の講演

10 分の休憩の後、「国際スポーツという大会を経て、迫る東京オリンピック・パラリンピックを考える」というテーマで、上述の村上氏にハンドボール元日本代表の岩本氏、熊本県教育庁の鳴瀬氏、そしてスポーツライターの美齊津氏を加えた 4 名によるシンポジウムが行われました。ラグビーW 杯でのエピソード（村上氏）や世界との体格差をどのように埋めていくのか（村上氏、岩本氏）、女子ハンドボール世界選手権の振り返り（岩本氏）、熊本県におけるスポーツの文化的学習の取り組み（鳴瀬氏）等、美齊津氏によるコーディネートのもと多岐にわたるテーマで展開されました。最後に、質疑応答があり、散会となりました。



シンポジウムの様子



質問する地元の高校のラグビー部の生徒